



バイオディーゼルの 木質ペレットは 実用段階へ

うるま市バイオマスタウン構想のなかで、すでに実用化のめどがついている事業が二つあります。廃食油を利用したバイオディーゼルと、廃材を利用した木質ペレットです。

バイオディーゼルは現在欧米で広く採用されているアルコールと触媒を使う方法ではなく、灯油と触媒を利用する新しい技術EDFで精製されます。

うるま市では原材料に家庭やレストランなどの事業所から出る廃食油を利用してバイオディーゼルの精製します。精製されたバイオディーゼルは建設用の重機や農耕

用の機械などの燃料として使用することができまます。

この事業は民間の(株)エコ・エナジー研究所が進めているもので、すでに東恩納に精製工場が建設されています。

一方、(株)バイオマス再資源化センターが商品化をめざしているのが木質ペレットです。

木質ペレットとは、廃材や間伐材などの残材、松くい虫被害木を粉碎・圧縮・成型した固形燃料で、木質に硫黄成分がほとんど含まれていないため、燃焼時の有毒ガスの発生が少なく、灰は無機質肥料として土壌に還元することができます。木質ペレットを火力発電所の燃料の一部として利用することで、CO₂削減効果も期待できます。



(株)エコ・エナジー研究所の精製タンク



(株)バイオマス再資源化センターで生産される木質ペレットの商品イメージ

